



日本僑報社・日中交流研究所

「中国人の日本語作文コンクール」 最優秀賞 姚麗瑾さん来日・交流



日本僑報社・日中交流研究所主催の「中国人の日本語作文コンクール」で、今年度第10回の最優秀賞（日本大使賞）に輝いた東華大学の姚麗瑾さん（テーマ「ACGと日中関係」）を2015年にスタートさせて10年が経つ。この10年間で2万3000人が応募し、958人が受賞したことを紹介した。

姚麗瑾さんは「日本人は近藤義典議員は「日中関係が良くない」といわれるが、政治部分である。友好を進める活動、人と人の交流は途絶えてはいない。こうした取り組みをするこ

とによって友好が進む。皆様方の活動に敬意を表している。若手の方々との交流がさらに進むことを望んでいる」と期待を込めた。

また、西田参議院議員は、段所長が取り組んでいる「中国人の日本語作文コンクール」は大きな意義がある。2月4日夜に参議院議員連盟を訪れ、日中友好議員連盟の近藤一参議院議員、西田参議院議員などを表敬訪問して交流を深めた。

最初に日中交流研究所の山口那津男代表と習近平氏が会見した時に山口の山が、公明党の代表が意見の違い、立場の違いがあるが、違いが問題であるわけではない。違いを対話で解決していくことが重要だと語っていた。

「御宅」と呼ばれても、中国の若者たちの生の声。日本のサブカルと中国のマンガ・アニメ。

「殺されたから殺して、殺されたから殺されて、それで本当に最後は平和になるのか」これは『機動戦士ガンダムSEED』で、幼馴染の主人公二人が立場の違いにより、相手を殺さなければならぬ状況下で抱いた疑問です。

「戦争の意義って何？」これは私がこのアニメを見た後ずっと考え続けている問題です。

当時、14歳でしかなかった私には、この問題は意味深かったです。

「殺されたから殺して、殺されたから殺されて、それで本当に最後は平和になるのか」これは『機動戦士ガンダムSEED』で、幼馴染の主人公二人が立場の違いにより、相手を殺さなければならぬ状況下で抱いた疑問です。

「戦争の意義って何？」これは私がこのアニメを見た後ずっと考え続けている問題です。

当時、14歳でしかなかった私には、この問題は意味深かったです。

中国人の日本語作文コンクール最優秀賞受賞作文

「ACGと日中関係」

東華大学 姚麗瑾さん

戦争の場面は大変リアルで、命の脆さを丁寧に描いていました。そして、この戦争の切なさは私の頭に深く印象に残り、今の世界情勢を少し自分の身に近づけて考えてみようと思い始めました。このアニメがきっかけで、私は日本のACGに興味を持ち、台詞をより理解するため日本語を勉強し始めました。

「ガンダムSEED」を見てから既に六年。今、私は日本語学部の学生です。日本語を勉強して二年目、授業中先生と学生が何度も日中関係をめぐって、討論しました。「日中関係がますます悪化し、最悪の場合は戦争になる…」先生がそう話したそばから、私は「ガンダムSEED」を思い出しました。

アニメの中に描かれている、戦乱のため、自分が自分の親友を殺さなければならぬ場面。私は絶対に経験したくないです。こう考えた私は、あるACGマニアが集まるウェブサイトにこう記しました。

「人が命を失っても、戦争は政治の原因以外に、双方の理解不足も原因の一つだと考えます。日中戦争の暗い影の下で、日本人全員が悪いと思っている中国人は少なからずいます。しかし、これは事実ではありません。

現在、中国人に人気がある日本のACGにはこのような誤解を解く力が秘められています。好きなACGについて話し合いながら、相手国の姿を確認し合う、これは新たな文化交流の形になるかもしれません。

そして、日本語を学ぶ学生は可能な限り、日中交流を深めていくべきだと思います。例えば、定期的に日本のACGマニア大会を開催するなど、同じ興味を持つ日本人と中国人を誘い、私たちが通訳として、彼らの交流の手助けをすれば、きっとみないい友達になれるはずです。小さなことから努力すれば、きっといつか日中関係がよくなると思います。

『ガンダムSEED』のラストのように、永遠の平和を祈ります。

※ (中国若者たちの生の声「御宅」と呼ばれても) 中国「90後」が語る日本のサブカルと中国人のマンガ意識」第10回中国人の日本語作文コンクール受賞作品集から：日中交流研究所所長 段躍中編 日本僑報社

「日中関係悪化は理解不足から日本ACGマニア大会開催を」

「ガンダムSEED」を見てから既に六年。今、私は日本語学部の学生です。日本語を勉強して二年目、授業中先生と学生が何度も日中関係をめぐって、討論しました。「日中関係がますます悪化し、最悪の場合は戦争になる…」先生がそう話したそばから、私は「ガンダムSEED」を思い出しました。

アニメの中に描かれている、戦乱のため、自分が自分の親友を殺さなければならぬ場面。私は絶対に経験したくないです。こう考えた私は、あるACGマニアが集まるウェブサイトにこう記しました。

「人が命を失っても、戦争は政治の原因以外に、双方の理解不足も原因の一つだと考えます。日中戦争の暗い影の下で、日本人全員が悪いと思っている中国人は少なからずいます。しかし、これは事実ではありません。

現在、中国人に人気がある日本のACGにはこのような誤解を解く力が秘められています。好きなACGについて話し合いながら、相手国の姿を確認し合う、これは新たな文化交流の形になるかもしれません。

そして、日本語を学ぶ学生は可能な限り、日中交流を深めていくべきだと思います。例えば、定期的に日本のACGマニア大会を開催するなど、同じ興味を持つ日本人と中国人を誘い、私たちが通訳として、彼らの交流の手助けをすれば、きっとみないい友達になれるはずです。小さなことから努力すれば、きっといつか日中関係がよくなると思います。

『ガンダムSEED』のラストのように、永遠の平和を祈ります。

※ (中国若者たちの生の声「御宅」と呼ばれても) 中国「90後」が語る日本のサブカルと中国人のマンガ意識」第10回中国人の日本語作文コンクール受賞作品集から：日中交流研究所所長 段躍中編 日本僑報社